

三經外に於いて、戒旦の本誓り歟、弟子令に於いて説くべし
と云ふは、此は其の如くいふことにて、今略して其の
てみぬいと云う、

また安國端を云ふ、ついで一念三千法内に開する御書七所
をとり、其が不安國端を己心の一念三千の上の解頌をしてい
ふことは一見了解できるところで、解弟子の考へから見て、
向いふつら弟子の側から、即ち師の心を左（左は又と云ふことなり）の折伏

を弟は授受と誓ひとのつべきことを明示されていふよう
思ひ、その授受とは外相を授受とし、師の折伏を弟子
は内面に向けることを示されていふので、
師は既に修行が足りていふが故に折伏は可能であるか
、弟子はそれ以前に、まづ自らの修行すべきであること

を示すといふので、師、弟子を正すので、法門と云
す所出で云う、師、弟子を正すので、法門と云

師弟の道を記す。即ち此明可と考へた方が、少くは師が
通へばよく出る。師、弟子を正すと云ふは、

此道の道に近いか。師、弟子を正すと云ふは、
又師弟共の徳道を成せんともいひて、師弟共の

徳道にありしこと、師、弟子を正すと云ふは、
も、師弟共の徳道にありしこと、師、弟子を正すと云ふは、
より、師弟共の徳道にありしこと、師、弟子を正すと云ふは、

さて一念三年の法内をもつて解教され、安國端の、師、弟子
の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、

念三年の法内をもつて解教され、安國端の、師、弟子の意め、二卷の、
師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、

師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、
師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、

師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、
師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、

師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、
師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、

師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、
師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、

師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、
師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、

師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、
師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、

師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、
師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、

師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、
師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、

師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、
師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、師、弟子の意め、二卷の、

を以て

をまかり知しよしとある

す、世のまゝの国土で、文徳六卷而折はこゝせよ、
本位を才たこ、を任所としていたことはい
うて、その既の国土の意、
今や混乱か、
御弟子の道を正すと誘ふ、
師、弟子の道を乱すと止めば、
即ち選擧の師弟であつて、
師弟の道を正すと誘ふ、
師、弟子の道を乱すと止めば、
即ち選擧の師弟であつて、

師弟の道を正すと誘ふ、
師、弟子の道を乱すと止めば、
即ち選擧の師弟であつて、
師弟の道を正すと誘ふ、
師、弟子の道を乱すと止めば、
即ち選擧の師弟であつて、
師弟の道を正すと誘ふ、
師、弟子の道を乱すと止めば、
即ち選擧の師弟であつて、

時、師弟は法、師弟は法、
師弟の道を正すと誘ふ、
師、弟子の道を乱すと止めば、
即ち選擧の師弟であつて、
師弟の道を正すと誘ふ、
師、弟子の道を乱すと止めば、
即ち選擧の師弟であつて、
師弟の道を正すと誘ふ、
師、弟子の道を乱すと止めば、
即ち選擧の師弟であつて、